

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第315回)

日時 平成29年10月5日(木) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、エネルギー白書についての解説

解説 資源エネルギー庁長官官房総務課・調査広報室

大石知広室長補佐

3、『新エネルギー関連ニュースNO.169』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る9月7日開催の第314回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して開会挨拶がありました。燃料電池自動車か、電気自動車かどちらが普及するかで世界は揺れている。7月にフランスやイギリスで相次いでディーゼル車の将来に向かっての全廃、電気自動車の普及を進めることが表明された。ここ1,2年で電気自動車技術は飛躍的に向上したが、その中心は現在世界最大の新車販売市場となっている中国である。日本が燃料電池自動車の高いシェアを持っているのに対抗

したのではないかとの見方がある。もっとも、電気自動車普及のためには充電ステーションの充実や電力の確保という課題が残されている。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・尾嶋正治東京大学名誉教授の経歴紹介がありました。次に、尾嶋教授より、「放射光を用いた燃料電池白金系正極触媒の劣化分析と非白金炭素系触媒の解析」について解説をいただきました。固体型燃料電池の仕組みは、負極に水素を供給すると、触媒により電子と水素イオンに分解する。陽極には酸素があり、これと電子・水素が触媒の力を借りて反応し、水を発生させる。触媒として最も性能が良いのはプラチナだが、高価な点がネックだった。また、劣化しづらい触媒を求めてきた。触媒の性能を上げるには、水素や酸素と接触する表面積を大きくするのが効果的である。触媒を微粒子状にした実験では、プラチナとニッケルとの合金で性能が向上した。また、電子を光と同等の早さまで加速し、磁石によって進行方向を曲げることで発生する放射光によって触媒の劣化を調べたところ、プラチナとコバルトの合金で劣化が少ないことも分かった。プラチナを使わない触媒としてカーボンを検討しているが、現状は寿命がプラチナの10分の1で、性能では及ばない。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.168』の解説がありました。今回は、○アンモニアから水素を取り出さず、直接燃料電池で発電することに成功。○発火しにくい燃料電池を安価に作る技術。レアメタルより安価なケイ素と錫を用いて、コストが従来の3分の1になるという。○発電菌と呼ばれる菌を発行させて発電する技術。○リチウムイオン電池の動きを3倍以上に高める電解質。○高効率太陽電池の低コスト製造装置。高価な有機金属に代わり、ガリウムヒ素を用いる。○風量を利用して熱を貯め、後で電気に変換する風力熱発電の実証試験が日本でも開始される見通し、黒潮などの力で電気をつくる海流発電装置の実証試験開始。3年後にも実用化したいとの考え、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、10月5日(木)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は三千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp

当日連絡先 080(8836)6203 (重田) 080(9292)2620 (高津)